

育苗時の温度管理に注意！温度計は常にチェック！
土づくりの効果を見直し、積極的に投入しましょう。

本年は、エルニーニョの発生が予想されていますが、気象変動に強い米づくりの第一歩は、土づくりと健苗育成です。

イキイキ苗づくりとケイ酸資材等の土づくり肥料の投入で土台をしっかり固めましょう。

【東北地方 1か月予報】

4月19日～5月18日

< 気温の予報 >

4/19～4/25： 平年並または低い確率 40%

4/26～5/2： 平年並みまたは高い確率 40%

5/3～5/16： 平年並の確率 40%

初期の苗代管理の注意点



温度管理に注意！

1 育苗期間の温度管理

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32		無加温出芽は芽が揃うまでこまめな管理が必要です。 被覆資材の特性を理解して低温時は保温対策を取りましょう。
緑化期 (出芽後 2～3日程度)	25	15	晴天になると高温障害が発生しやすくなります。ハウスの温度管理に注意し、早めにハウスを開放しましょう。
緑化期以降	20～25	8 以上	40 を超すと 30 分でヤケます。 【外気温が 25 以上の日は要注意！】 低温の時期には、保温に努め、また、霜が予想される場合は、早めにハウスを閉めましょう。

2 かん水は午前中にたっぷり 1 回。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょう。

3 プール育苗では、1.5 葉期からハウスを開放し、たん水します(箱上 1cm 程度)。苗が伸びやすくなるためハウスの気温はやや低めに管理しましょう。

育苗時における追肥の注意点

1 苗種別の追肥時期の目安は以下のとおりです。

	1.5～2.0 葉	2.3～2.5 葉	2.8～3.0 葉
稚苗 (田植え時の葉齢：2.2～2.5 葉)		() 葉色を見て	
中苗 (田植え時の葉齢：3.2～3.5 葉)			

2 床土に育苗一発肥料を使用した場合は、追肥を省略できます。

3 追肥の量(100箱あたり)、使い方は次のとおりです。

液肥 2 号(N:P:K=10%:4%:8%)…500cc を 50 の水に溶かして(100 倍)、全量均一に散布します。

【1箱あたり追肥量(N成分：0.5g)】

硫安(N：21%)…500g を 30 の水に溶かして施用します。肥料焼けを防止するため、追肥後は直ちに葉に水をかけて肥料を洗い流します。 **【1箱あたり追肥量(N成分：1g)】**

4 プール育苗で液肥により追肥する場合には、濃度障害を防ぐため 1～2 日後に排水します。

育苗期間中の病害対策

- 1 育苗期間中に発生する主な病害は下記のとおりです。
温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。
カビが発生したり、苗の生育異常が見られたりした場合には、早めにご相談ください。

病原菌	主な症状	主な原因	発生抑制のポイント等	
苗立枯病	リゾプス	種子、芽の周囲に白いカビが発生。根の褐変。葉の黄化。	出芽時の高温多湿。	33 以上の高温、多湿にしない。
	フザリウム	白色～淡紅色のカビが発生。	緑化期の低温。湿度の変動が大きい場合。	低温をさげ、適切な温度を保つ。
	ピシウム	カビは見えない。出芽後の芽、根の枯死やムレ苗が発生。		
	トリコデルマ	芽の周囲に淡緑色のカビが発生。	汚染度の高い資材を使用した場合。床土の乾燥。	過乾燥にならないよう注意する。
苗立枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化、坪枯れ。	高温多湿。効果のない薬剤の選択。	高温多湿にしない。発生した場合は苗を処分する。(発生後、薬剤防除不可)	

土づくり・耕起のポイント

- 1 平成24年、全農山形県本部が「つや姫」ほ場の土壌分析を実施したところ（置賜地域で614点）右のような傾向がありました。ケイ酸資材等を投入し、積極的に土づくりで土壌改善しましょう。

土壌 pH が低い
ケイ酸が不足している

- 2 土づくり肥料の中でも特にケイ酸資材は気象に負けない稲づくりに重要です。ケイ酸資材は 根の活力維持、 登熟能力の向上、 いもち病抵抗性の向上などの効果が期待できます。積極的に施用しましょう。【ケイカル 120kg/10a】
- 3 pHの低い圃場では有機物の分解が遅れ、ワキを助長します。適正な pH は 5.5～6.5 ですので、酸度矯正を行い、肥料養分の吸収阻害等を防ぎましょう。
- 4 養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のために、耕土深 15cm を目標に、耕起を行いましょう。

4月10日～6月10日 春の農作業安全運動展開中！



春作業の忙しい今期には
例年痛ましい事故の発生がみられます。

あせらず・きもまず・安全を確認して
作業を行いましょう！

トラクターのほ場からの
退出は慎重に！